

オオカミのたたかい



ある日、ある時、ある場所で、
悲鳴があがりました。



同じ日、同じ時、違う場所でも、
悲鳴があがりました。



ある場所で、黒いオオカミが
ワナにかかったのです。



違う場所では、黄金色のオオカミが
ワナにかかったのです。



黒いオオカミは、ワナをはずそうと
引っ張ったり、噛みついたり、もがき
回りました。

だけど、もがけばもがくほど、ワナ
がくい込んでしまいます。

ムりに引っ張ると、手首がちぎれそ
うです。



黄金色のオオカミも、ワナをはずそうと引っ張ったり、噛みついたり、もがき回りました。

だけど、もがけばもがくほど、ワナがくい込んでしまいます。

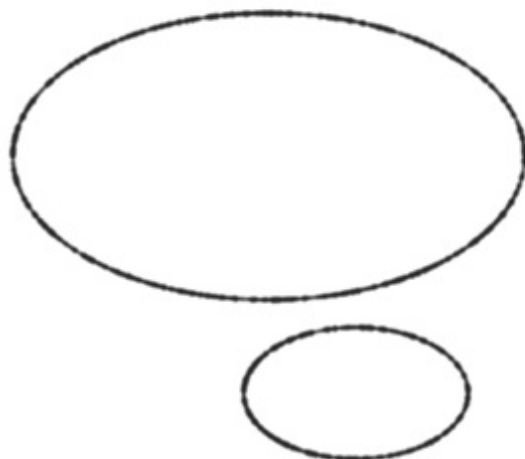
ムりに引っ張ると、手首がちぎれそうです。



このままだと、動物園に連れて
いかれてしまいます。

「どうしよう...どうすればいい
のだ...。」

それぞれのオオカミは考えました。



黒いオオカミは思いました。
「ダメだあ〜！...でも、どうにも
ならない。...ああ」
そして、「あきらめるしかない」
という決断をしました。



黄金色のオオカミは思いました。
「ダメだあ～！...でも、未来を奪わ
れたくない。...チクショー」
そして、「絶対あきらめない」
という決断をしました。



黒いオオカミはなにもせず、黄金色のオオカミはもがき続け、しばらくの時間が過ぎました。

そして、二頭のオオカミはそれぞれ覚悟を決めました。

黒いオオカミは、オリの中に行くということ、

黄金色のオオカミは、手首を失うということ ...

どちらもつらい決断でした。



黒いオオカミは、連れて行かれる
のを、ただただ待ちました。

不安に襲われました。

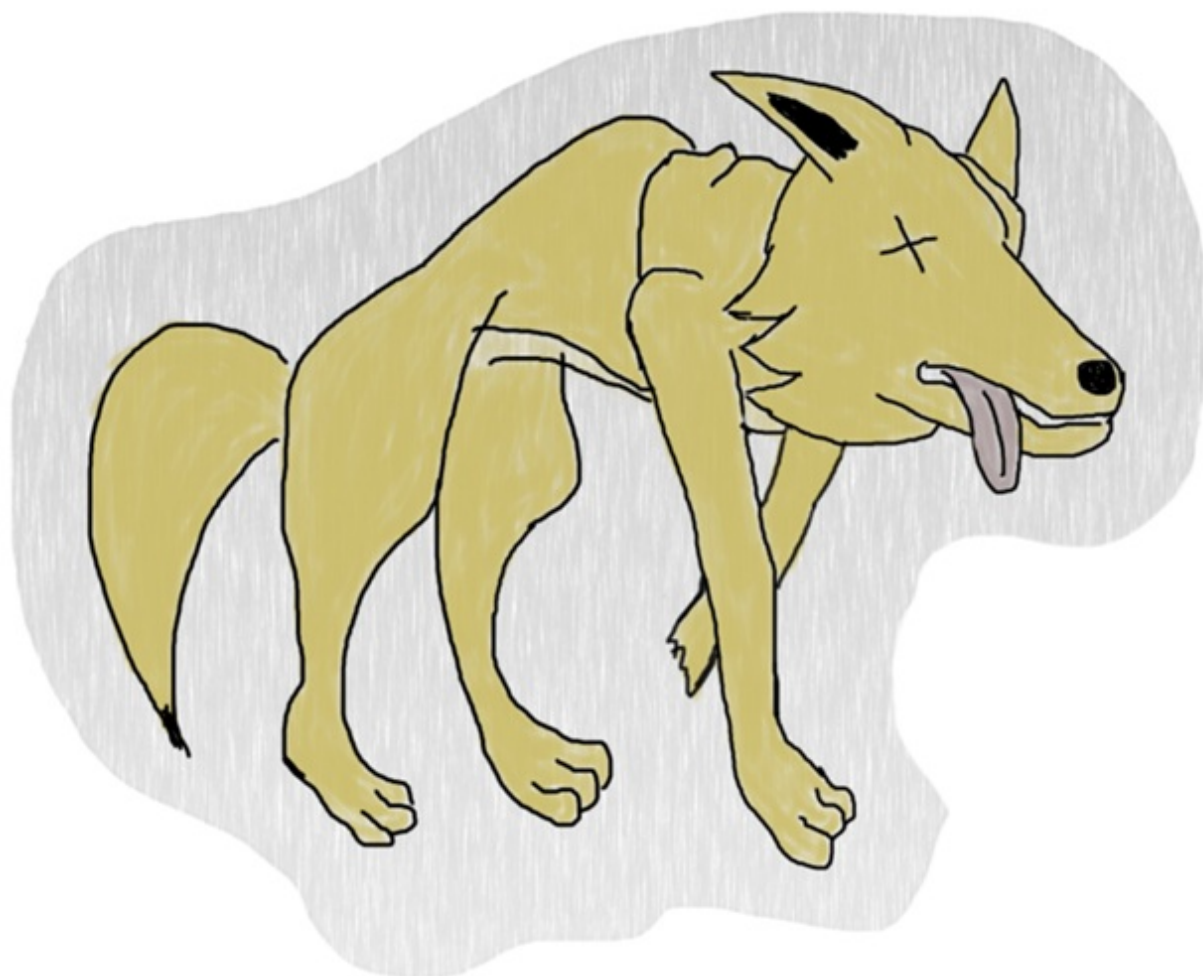
そして、絶望しかありません。



黄金色のオオカミは、ワナに挟まった手首をちぎって、その場を去りました。

激痛に襲われました。

でも、希望があります。

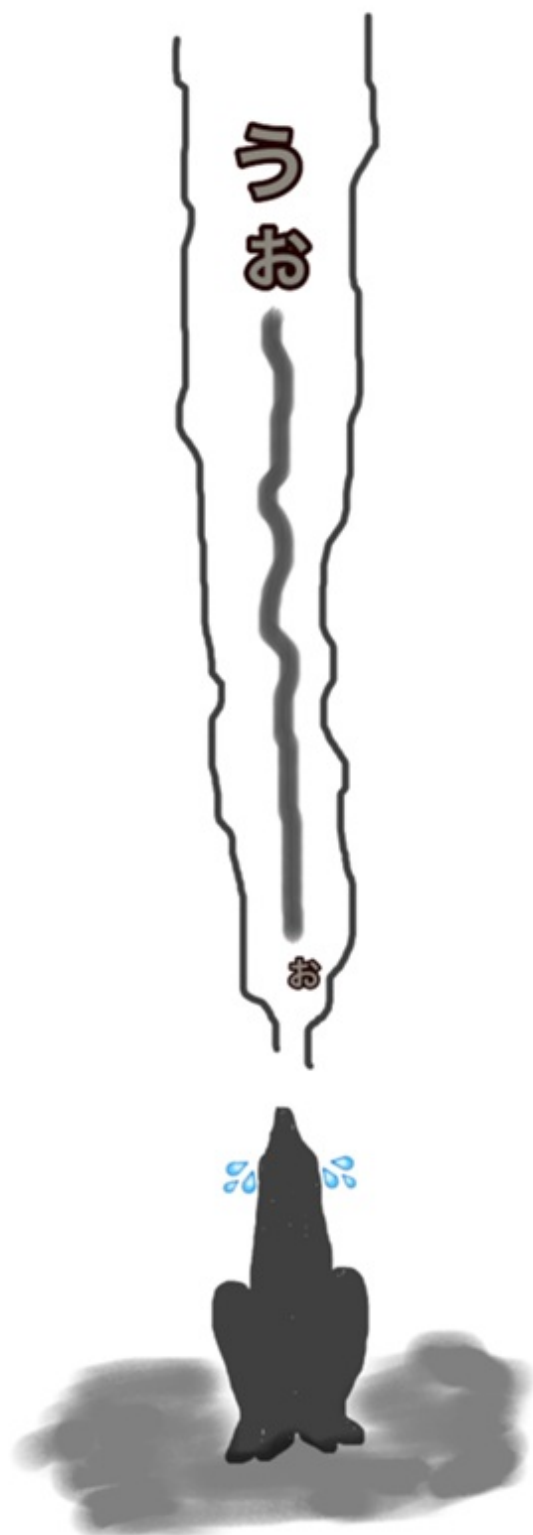


そして、しばらくの時間が経ち、黄金色のオオカミの傷が癒えた頃、黒いオオカミの傷は癒えるどころか、さらにヒドくなっていました。

そして . . .



一方は、絶望の中の悲しい声で...



もう一方は、希望に満ちたたくましい声で...

遠吠えをあげたのでした。

